

第16回地域公共交通会議兼第2回地域公共交通活性化協議会

議事録

会議録署名人 徳 回 伝

- 1 開催年月日：令和5年1月12日（木）
- 2 会議時刻：14時00分から
- 3 会議場所：北谷町役場 1階 レセプションホール
- 4 出席委員
 - (1) 仲松 明 副町長 ※会長
 - (2) 野原 広邦 内閣府沖縄総合事務局運輸部陸上交通課課長
 - (3) 村上 隼 内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室長
 - (4) 名嘉山 敬雄 沖縄バス株式会社運輸部業務課長
 - (5) 安慶名 信吉 株式会社琉球バス交通取締役部長
 - (6) 慶田 佳春 一般社団法人沖縄県バス協会専務理事
 - (7) 津波古 修 一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会事務局長
 - (8) 佐久川 政徳 北谷町老人クラブ連合会副会長
 - (9) 屋比久 里美 北谷町観光協会会長
 - (10) 徳田 伝 北谷町北前区自治会長
 - (11) 岡村 悦子 北谷町美浜区自治会長
 - (12) 比嘉 学 沖縄県企画部交通政策課公共交通推進室長※代理出席
- 5 欠席委員
 - (1) 神谷 大介 琉球大学工学部工学科准教授
 - (2) 大城 元秀 内閣府沖縄総合事務局南部国道事務所副所長
 - (3) 山根 博文 沖縄県中部土木事務所技術総括
 - (4) 比嘉 暁 沖縄県沖縄警察署交通対策課長
 - (5) 東江 一成 沖縄交通事業者協働組合代表理事
 - (6) 喜屋武 悟 私鉄沖縄県労働組合連合会執行委員長
 - (7) 仲宗根 仁志 北谷町自治会長連絡協議会会長
 - (8) 米須 義明 北谷町商工会会長

6 事務局

(1) 北谷町役場

- ①花城 可津人 企画財政課長
- ②眞喜志 康仁 企画財政課企画調整係長

(2) ランドブレイン株式会社

- ①瀬戸 慎一
- ②井口 賢人
- ③宮城 勇大

7 説明又は意見を求めるために出席した者：なし

8 傍聴人：4名

9 協議事項

- (1) 北谷町地域公共交通計画（素案）について
- (2) （補足資料）観光客・登録者アンケート調査結果概要について

10 会議資料

- (1) 第16回北谷町地域公共交通会議兼第2回北谷町地域公共交通活性化協議会 座席配置図
- (2) 北谷町地域公共交通計画（素案）【資料1】
- (3) （補足資料）観光客・登録者アンケート調査結果概要【資料2】

11 会議内容

～公開～	
次第2 会長あいさつ	
事務局	それでは次第の2会長あいさつです。仲松会長よろしくお願いたします。
会長	新年あけましておめでとうございます。今回は令和5年初めての会議となります。本町の地域公共交通充実のために、ご参集いただき誠にありがとうございます。本年も引き続きよろしくお願いたします。
次第3 協議事項(1)北谷町地域公共交通計画(素案)について	
事務局	「北谷町地域公共交通計画(素案)(資料1)」について説明した。
会長	資料1のご説明ありがとうございました。 本町では平成29年からコミュニティバスの実証運行を開始しており、公共交通施策を展開してきた。今後はより高齢化が進行し、高齢者が元気に社会に参画することがまちづくりのポイントになるため、移動手段に関して積極的に支援したい。 沖縄県内における本町の財政指数は、那覇市に次ぐ状況であるため、コミュニティバスの導入が上手くいかない場合、その他市町村での導入も厳しいのではないかと考えているため、本町が先進的に取組を進めたい。 また、資料1、71頁の実施事業一覧について、各取組に対して実施主体が記載されており、それぞれの目標達成に向けて各主体と連携して取り組みたい。記載している目標や事業内容については、ヒアリングなどを基に検討しているが、忌憚のないご意見をいただきたい。
委員	コミュニティバスについて、今後の取組は検討中とご説明いただいたが、どのようなスケジュールをイメージしているか。 また、68頁のフィーダー補助に関して、いつから活用を検討しているのか。
事務局	コミュニティバスの取組については、実証実験を継続、廃止するのか、本格運行するのか検討中である。令和5年3月末時点で一定の結論を出し、計画内の記載表現を精査する。 また、フィーダー補助の活用を検討中であるため、コミュニティバスの運行と併せて検討する。
委員	コミュニティバスに関する記載は変更する可能性があるのか。
事務局	令和5年3月時点での決定に併せて、コミュニティバスに関する記載を精査する。しかしながら、コミュニティバスに関する決定前にパブリックコメントを実施するため、事務局内で記載表現を調整する。
委員	68頁のフィーダー補助について、補助を受けるためには必要性や実施主体を記載する必要がある。
事務局	計画の必要性については68頁、実施主体については73頁に記載している。
会長	本格運行の判断材料をどのように考えているのか。
事務局	これまでの判断基準として、質と量という観点で判断していたと思う。これからの判断基準については別途検討中である。
委員	アンケート結果などを踏まえて判断するのか。もしくは、別の基準などで判断するのか。

事務局	最終的な判断については、事務局や庁内での合意、調整があるかと思う。
会長	運行判断には定量的、定性的な側面から確認する必要がある。その中に、アンケート結果や収支率などの定量的なデータも含まれると理解した。
事務局	高齢者の外出支援や本町でのコミュニティバスの役割等を含めて総合的に判断することになるだろう。
委員	71頁の「北谷町コミュニティバスの再編」に関して、令和5年度までは実線だが、令和6年度以降は点線で示されている。今後もコミュニティバスの取組を継続していただきたいが、実線と点線の記載はどのような意味か。
事務局	令和5年度中に今後の運行に関して決定をする。現段階では、令和6年度は継続、廃止、本格運行となるのかが決定してないため、点線で記載している。
委員	78頁の「運転手の確保の実施」に関して、運転手の確保は急務であり、町からもご協力賜り大変感謝している。 また、73頁の「～運賃外収入の導入についても検討・実施する。」とあるが、これまで運賃外収入の実績はあるか。
事務局	運賃外収入は収支率向上に資すると理解している。これまで導入した経緯は無いが、スポンサー企業などからの広告料収入を確保できるように検討したい。
委員	バス停ではネーミングライツを導入しており、バス停名も地名などから変わってきている。浦添市牧港では「第一牧港」を「ブルーシール本店前」に変更した。コミュニティバスのバス停は56か所あるため、ネーミングライツなどの広告料収入を検討してはどうか。
委員	78頁の「運転手の確保の実施」に関して、運転手不足はかなり深刻である。年末年始の繁忙期には、乗客から「タクシーが捕まらず深夜なのに帰宅できない」とクレームも発生しており、町内でもそのような状況だったかと予想される また、10頁には路線バス情報が細かく記載されているが、タクシーに関する記載は16頁(7)のみである。ハイブリッドやユニバーサルデザイン車両の導入や、障害者や免許返納者の割引に関する記載もしていただきたい。これまでバスとともに公共交通を担ってきており、記載に関して調整をお願いしたい。 61頁の沖東交通へのヒアリング内容について、「沖東交通独自アプリ(D i D i)」ではなく、沖東交通アプリは別名称なので、記載内容を再確認いただきたい。また、「令和5年1月からGOの運用を開始」は記載して問題ないものか、記載表現を調整確認いただきたい。
事務局	16頁のタクシーに関する記載内容については、沖東交通のヒアリング情報などをもとに肉付けしたい。掲載順序等については調整検討させていただく。
委員	71頁、73頁に関して、コミュニティバスの実証運行は令和3年7月に開始しているので、最大3年間の令和5年度までであるが、地域公共交通会議で了承が得られれば延長継続することは可能である。本格運行となればこれまでの実証実験でのデータの整理や事業者にて許認可を取ることになる。収支率などが厳しいということであれば、運行形態を変更してはどうか。このままでは利用者の利便性は上がらないと思うの

	で、継続して実証実験するのであれば、本格運行につながる運行形態としていただきたい。事務局より照会が来ているようなので、相談していきたい。
委員	デマンド型移行後の利用率状況はどうか。
事務局	15頁に1日平均利用者数の推移を整理しており、2台運行で1日60人利用は全国的に見ても多いという印象である。収支状況に関しては、シルバー人材センターへの委託料などもあり、収支率は悪化している。
委員	電話予約の手間は高齢者にとってはハードルが高いと考えるため、予約の手間が不要な路線型が良いのではないかと。
会長	利用の仕組みについてご説明いただきたい。
事務局	令和3年7月から従来の路線型からデマンド型に移行したことにより、名前・年齢・住所などの事前登録と電話予約が必須となった。アプリを活用した予約方法も検討したが、高齢者がスマホアプリで予約することはハードルが高いと判断したため、未導入である。昨今は町内の高齢者のスマホ利用率も向上しているため、今後はアプリ活用も検討している。
会長	路線型での改善点として、停留所数を増やした。また、乗車時間帯の流動性を持たせるために、デマンド型を採用した。乗車回転率は上がったが、定時運行を守るため利用人数の調整も発生した。
委員	以前は時間通りにバスが来たが、30分程度の遅延が発生しており、住民からデマンド型は便利だが、待ち時間に関する苦情や意見をいただいている。デマンド型のデメリット、メリットを精査する必要があるのではないかと。
事務局	61頁のコミュニティバスに関するヒアリング結果にも記載している通り、同様のご指摘をいただいた。新型コロナウイルス感染症蔓延状況が落ち着いたタイミングで人の動きが活発化した影響で渋滞が発生し、定時性が守れなくなってきている。
委員	砂辺地域のホテル業者から周辺にバス停を設定してほしいと意見があった。町内にも観光客が多く、全体的にもレンタカー不足であり、公共交通を充実してほしい。宮城、砂辺あたりまで路線があれば良い。
会長	観光客などの町外居住者は事前登録をせず、利用可能が可能であり、既存公共交通に接続可能である。
事務局	16頁記載の「美浜シャトルカート」「ミハマシェアカート」や、シェアサイクルなど補完する既存の交通手段もあるため、総合的に検討する必要がある。また、平日よりも土日の利用状況は低いので、観光客に力を入れていくのかは検討する必要がある。
委員	64頁の「④公共交通への転換による交通渋滞の緩和」に関する現状として、9頁では町外への通勤通学の状況、74頁では路線バスの利用促進策として、「町ホームページでのバス利用の情報提供など利用促進を展開する」とあるが、その他に町として取り組めないか。本計画に記載することが難しい案やすでに取り組まれていることはあるか。
事務局	具体的な取組に関しては、県の取組も踏まえて記載を検討したい。また、30頁に記載している「TDM施策(交通需要マネジメント)」や「MM(モビリティマネジメント)」などをどの程度まで本計画に記載すべきかを検討したい。

事務局	28頁記載の「沖縄県観光振興基本計画」には「立ち寄りの多い北谷町を観光二次交通結節点として位置づけ、二次交通の利用促進と分散化を図る」とあり、次年度以降県と調整などが実施される。 また、美浜公共駐車場ではカメラを設置し、車両ナンバーから滞在時間や属性把握を行い、今後の施策の検討の素材を収集している。
委員	中部圏域の交通課題に関して、連携していきたい。
会長	それぞれのダイヤを結び付けることができれば、コミュニティバスから公共バスやタクシーなどにつなげることができる。また、県の取組もあるので併せてアピールすることができれば良い。同じ計画を策定するメンバーなので、お互いの政策についても本計画を活用して発信していただきたい。
委員	80頁に関して、「公共交通総合マップ配布数」が評価指標となっているが、配布数だけでは達成度合いが図れるのか。予算確保の課題もあるが、アンケート実施などその他の評価方法はないか。
事務局	指標を再検討する。
協議事項(2) (補足資料) 観光客・登録者アンケート調査結果概要について	
事務局	「(補足資料) 観光客・登録者アンケート調査結果概要(資料2)」について説明した。
会長	補足資料となっているが、どの補足資料となるのか。
事務局	コミュニティバス評価業務の補足資料という意味である。
委員	デマンド型移行後の方が満足度は高いと理解した。デマンド型の課題は収支率なので、運賃外収入をどのように確保するのが重要である。ぜひ、一緒に頑張っていきたい。
会長	観光産業との連携は財源確保にもつながるが、観光産業との連携がまだまだできていないので、検討する必要がある。
次第4 その他について	
委員	県でも次年度計画策定予定である。ご協力をお願いします。
事務局	今後はパブリックコメント実施し、その後、第3回を2月下旬に開催予定である。
会長	ご審議ありがとうございました。 これにて第16回北谷町地域公共交通会議兼第2回北谷町地域公共交通活性化協議会を閉会します。本日は、どうもありがとうございました。

【会議風景】

